

医学系研究科 保健学専攻

学位プログラム： 次世代のがんプロフェッショナル養成プラン がん治療を目指した分子ゲノム
授与する学位： 修士（保健学）

教育目標

大阪大学及び医学系研究科保健学専攻の教育目標のもと、将来、医療関係に携わる学生を対象に、ゲノム医療全般についての知識の修得、さらには分子生物学、遺伝子学の応用力を養い、ゲノムのみならず、microRNA を含めたエピゲノムや蛋白レベルの異常についても深い応用力を発揮できるように教育します。

○最先端かつ高度な専門性と深い学識

DNA 変異のみならず、RNA やヒストン蛋白のメチル化、アセチル化など分子生物学全般に関する癌の知識と応用力を高め、特に microRNA や siRNA などの small RNA を使った癌治療の開発を行えるよう指導します。また最先端の領域として 3 次元ゲノム構造による癌遺伝子の発現制御機構も明らかにするよう教育します。

○高度な教養

培ってきた教養と深い専門知識を更に発展させて、どのような医療現場に置かれても、柔軟な思考と応用ができるように能力を養成します。

○高度な国際性

高度な専門知識、技術と語学力を高め、国際的な学会や意見交換の場で自分の考えを英語で述べるができるように指導します。

○高度なデザイン力

自分の研究テーマのみならず、いろいろな文献や情報をグローバルに収集し、研究を別の視点から展開するデザイン力を養います。

○独自の教育目標

修了時点でがんゲノムに関する研究論文を完成させます。広く分子生物学的な知識を身につけさせます。実際の研究過程を通じて、考える力を養成し、将来がんゲノムに関するリーダーとして信頼される人物となることを目的とします。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

大阪大学及び医学系研究科保健学専攻のディプロマ・ポリシーのもと、「がん治療を目指した分子ゲノムコース」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。臨床での課題や多職種チーム医療との融合を目指した将来ゲノム医療に携わる可能性のある学生を受け入れ、学位（修士（保健学））を授与します。

○最先端かつ高度な専門性と深い学識

- ・医療科学の領域で研究を遂行できる基礎学力と高度な専門性と深い学識・教養、高い倫理性を備えている

○高度な教養

- ・医療専門職としてふさわしい高い倫理観と人間性を身につけ、常に医療のプロフェッショナルであるという自覚のもとに、社会の発展のために積極的に貢献できる

○高度な国際性

- ・国際専門誌の読解力と、自身の研究の社会への説明能力を有している

○高度なデザイン力

- ・学問の府たる大学としての自主性、独創性があり、研究の視点として理論と実証の両面を備える研究テーマを設定できる
- ・課題に対する新たな評価法を提案でき、問題解決能力を身につけ、基盤技術の構築を目指す

○独自の学習目標

- ・ボーダレスデザイン、オリジナリティーを優先し、将来の医療へ貢献できる研究を推進できる能力を有している

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

大阪大学及び医学系研究科保健学専攻のカリキュラム・ポリシーのもと、「がん治療を目指した分子ゲノムコース」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。柔軟な思考力、高度な医療の知識、研究者としての高い倫理性が持てるような教育システムになっています。

<教育課程編成の考え方>

博士前期課程では、医療科学の領域の専門分野の研究に必要な最先端の高度な講義、演習、実験・実習を履修させ、指導教員からの研究指導の下に修士論文を作成させます。

必要な授業科目を履修する過程において、医療科学の領域で研究を遂行する基礎学力と高度な専門性と深い学識・教養を身につけさせ、演習での発表や研究の進捗状況報告の過程の中で研究の視点として理論と実証の両面を備える研究テーマを自ら設定できる能力や臨床での課題を発見し解決する能力を身につけさせるとともに、他者からの視線にさらすことにより高い倫理性を身につけさせます。また、基本的に科学論文を英語で読むことを必要とするため、英語で行われる講義の受講、英語による研究発表を行わせることにより、高度な国際性を身につけさせます。

<学修内容及び学修方法>

博士前期課程では、2年間以上在学しその間に専門科目、高度教養教育科目、高度国際性涵養教育科目をそれぞれ所定の単位数を充足し、必要な研究指導を受けた上、指導教員から論文指導を受け修士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格すれば修了し、学位を授与します。なお、高度教養教育科目、高度国際性涵養教育科目については、研究科において履修が認められた場合、修得した単位を所定の単位に充当します。

基本的にひとつの研究テーマに取り組みます。実験計画、実践、結果の解釈と分析、次の実験の方向性と具体的な項目の設定を丁寧にやっていき、最終的に未知の領域に踏み込んでいきます。そのためには現状、世界的にこの課題についてはどこまで分かっているかを常にキャッチしておく必要があります。週1回の講義によって他分野の研究についても考察し、自分の考えを述べ、自分のテーマ以外でも見識を広め考える力を養います。自考力、協調性、課題解決能力が要求され、それぞれを独自の方法によって修得できる/評価できる学修体系になっています。

<学修成果の評価方法>

学修の成果は講義内でのプレゼンテーション及びレポートによって、シラバスに記載された学習目標への到達度をもとに評価します。講義、セミナーの出席はもちろんですが、普段からの研究に取り組む熱意、議論と組織人としての献身的な態度、他人との協調性も評価項目として重視し、最終的には出来上がった研究成果＝学位論文を含めて評価します。

医学系（保健学専攻）がんプロ がん治療を目指した分子ゲノムコース 修士（保健学） カリキュラムマップ

	研究科学学習目標												
	最先端かつ高度な専門性と深い学識	高度な教養	高度な国際性	高度なデザイン力	独自の学習目標	1年				2年			
						春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期
高度な教養 ○医療専門職としてふさわしい高い倫理観と人間性を身につけ、常に医療のプロフェッショナルであるという自覚のもとに、社会の発展のために積極的に貢献できる	○	○		○	○	高度教養教育科目							
最先端かつ高度な専門性と深い学識 ○医療科学の領域で研究を遂行できる基礎学力と高度な専門性と深い学識・教養、高い倫理性を備えている	○	○				専門科目・実習科目 (分子ゲノムセミナーⅠ,Ⅱ、分子ゲノム実習Ⅰ,Ⅱ等) 医療技術科学ゼミナールⅠ・Ⅱ							
独自の学習目標 ○ボーダレスデザイン、オリジナリティーを優先し、将来の医療へ貢献できる研究を推進できる能力を有している	○		○	○	○								
高度なデザイン力 ○学問の府たる大学としての自主性、独創性があり、研究の視点として理論と実証の両面を備える研究テーマを設定できる	○	○	○	○	○								
○課題に対する新たな評価法を提案でき、問題解決能力を身につけ、基盤技術の構築を目指す	○		○	○									
高度な国際性 ○国際専門誌の読解力と、自身の研究の社会への説明能力を有している			○	○		修士論文発表会							